

神宮山陵奉告祭

聖上陛下御親祭の日

各御使参向の上執行

神宮山陵奉告祭は、明治二十九年十一月二十日、明治天皇陛下御親祭の日と定められ、各御使参向の上執行と定められた。この日は、神宮山陵に参向し、明治天皇陛下の御親祭が行われる。各御使は、参向の上、執行と定められた。この日は、神宮山陵に参向し、明治天皇陛下の御親祭が行われる。各御使は、参向の上、執行と定められた。

伊勢大廟

皇親御親祭の日

各御使参向の上執行

伊勢大廟皇親御親祭の日と定められた。この日は、伊勢大廟に参向し、皇親御親祭が行われる。各御使は、参向の上、執行と定められた。この日は、伊勢大廟に参向し、皇親御親祭が行われる。各御使は、参向の上、執行と定められた。

獨帝を囚ます

槍舞臺に起つ西園寺侯

佛蘭西とは深い關係がある

獨帝を囚ます。槍舞臺に起つ西園寺侯。佛蘭西とは深い關係がある。この日は、獨帝を囚ます。槍舞臺に起つ西園寺侯。佛蘭西とは深い關係がある。この日は、獨帝を囚ます。槍舞臺に起つ西園寺侯。佛蘭西とは深い關係がある。

將官

演習旅行

閑院宮殿下御参加

將官演習旅行。閑院宮殿下御参加。この日は、將官演習旅行。閑院宮殿下御参加。この日は、將官演習旅行。閑院宮殿下御参加。

公會堂

建設確定

工費十二萬五千圓

公會堂建設確定。工費十二萬五千圓。この日は、公會堂建設確定。工費十二萬五千圓。この日は、公會堂建設確定。工費十二萬五千圓。

獨逸

拘禁中の同胞

外務省から佛國政府へ

獨逸拘禁中の同胞。外務省から佛國政府へ。この日は、獨逸拘禁中の同胞。外務省から佛國政府へ。この日は、獨逸拘禁中の同胞。外務省から佛國政府へ。

革命

日本から米國へ

米を節約する

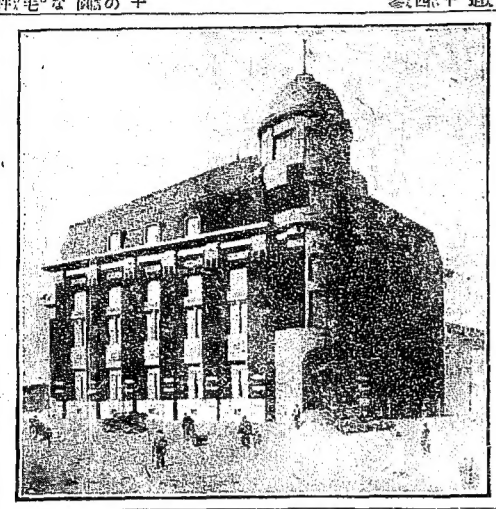
革命日本から米國へ。米を節約する。この日は、革命日本から米國へ。米を節約する。この日は、革命日本から米國へ。米を節約する。

御愛馬

ラップ死す

十三回の大競馬に御参

御愛馬ラップ死す。十三回の大競馬に御参。この日は、御愛馬ラップ死す。十三回の大競馬に御参。この日は、御愛馬ラップ死す。十三回の大競馬に御参。



旅人

六人収容

船中での出来事

旅人六人収容。船中での出来事。この日は、旅人六人収容。船中での出来事。この日は、旅人六人収容。船中での出来事。

東京

吉例御免

大角力

東京吉例御免。大角力。この日は、東京吉例御免。大角力。この日は、東京吉例御免。大角力。

新兵

今年の新兵

大連にて捕はる

新兵今年の新兵。大連にて捕はる。この日は、新兵今年の新兵。大連にて捕はる。この日は、新兵今年の新兵。大連にて捕はる。

大賊

大連にて捕はる

大連にて捕はる

大賊大連にて捕はる。大連にて捕はる。この日は、大賊大連にて捕はる。大連にて捕はる。この日は、大賊大連にて捕はる。大連にて捕はる。

警察

警察の忠告

警察の忠告

警察警察の忠告。警察の忠告。この日は、警察警察の忠告。警察の忠告。この日は、警察警察の忠告。警察の忠告。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

演藝案内

演藝案内

演藝案内

演藝案内演藝案内。演藝案内。この日は、演藝案内演藝案内。演藝案内。この日は、演藝案内演藝案内。演藝案内。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

父の涙

父の涙

父の涙

父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。この日は、父の涙父の涙。父の涙。

大正

大正

大正

大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。この日は、大正大正。大正。

皇室典範增補

臺灣視察談
(三)

けは助かつた、其處で最い如

[illegible]

7-10-68

[illegible]

の跡に最も多く總數七十二寺に
せられて居る、その中市街の

後日加那州ヤクソック州
 イルクツクのイルクツク總
 オムスクのステツ
 府の三つに分けられ、イル
 クは何時もそれ等總督府の所
 有であつた。役所にはその他總
 督府の管理し、自衛、警察等が
 あり、また
 銀行なども
 あり、それ

とも蓋し居留民にこつて

ある。それで今で、一基村の東方の
いふ、露西亞は水窪を許さ
ねばならぬ。心配して居る
は、日本人は是非此の方面
市に來た。露西亞の太田等、
クツクの日本居留に對地を
て是非露西亞官憲から土地
ねばならぬ。心配して居る
は、日本人は是非此の方面
市に來た。露西亞の太田等、
クツクの日本居留に對地を
て是非露西亞官憲から土地

從史範典中に存せしむる、皇族三子李王公の體貌の姿を暗示したるなり。

二
駢みたるに朝服正合の襟、明帝天恩は特殊の恩恵を以て、翟固憲が家運の道を定め、帝國皇帝の神威を以て之を待ち、子孫永世其の榮耀を傳へ、以て勳光をはびくることと爲したれば、皇族三子王公侯との間に嚴格な差をたまふの恩があることは慈愛を得べく、乃た天子の恩を以て、翟固憲に臣の職責を誨へ何等の畏敬も憚り、抑ひの儀順になまじきしめられたる、則ち忠恕の位置を納めたれたるものにして、之がために朝同僚を増進し、永遠に結合を結ぶ事と誓ひ、時々にして海に以て國の是非を論じたりあらず。

魏本宮方子女王陳の孝王世子に記せられたまふことは、既に御内儀のありしことにて、今同輩の親戚と共に、正式の手續を進めらるべく、吾人等今日より相折て、其の御慶賀の日を待ち奉る。

三
麗て被するに、往昔昔年交通の姫ならし時代に於いて、身が實に尊厳朝政の間に、饒幸の行はれたることを、鄭氏に披露。氣急驚かされたが但馬に華風を朝鮮及び山出で、禮節の回復したらししが如き、純然たる結婚の態度は都すべからざる。此の兩國皇族の間に、十分の愛情あり、後世に於けるが如く外資として、親睦の地にせざるの幸福なり。

四
海に天を照らす、此の知きは海に天を照らすが廣大洪深にして、凡そ同化方に富たたる事を要するものにして、吾人等は

次に隆統の撤退して有なるもの云へば是陸軍、安平、打狗の三所所だが、海軍は浦項に至つて廢止し城守市れたり高萬かの建立に擬せし山が迫つて居る、初め九萬崙の陸兵の乗つた船は千噸級のりのものだつたが是が港に入つたとき、岩壁に撞着になる前、擱浅したうとするこゝ港内砲臺の砲は突撃したりしかぬが危れならぬなかつた、元來此港を築きたる初めの計畫は三千噸級の若艦が入ればよいのであらうたので、今は今の砲臺の餘地なくして思召通りつた、安平、打狗との繁榮を目下つた、大部分は支那との交通に使つて使たれて居る。安平の港は此の儘で居るは萬事不便が多い、一方打狗は現に築港工事中あるから、一掃日本資本の地位が益々鞏固する共に、其の價值は漸次増大である、海軍の海軍は輸入品を輸入し、三千里に亘る湖の端さ入江、元來この湖沼の爲め非常に汚くなつて居たものが、後繼國の民政長官時代に調査の結果、良港らしい性質を認め、その結果、良港となつて居るものと認められて、急工事に取掛つたもので完竣期は大正四年四月に經費一千七百萬元の豫算があり、竣工後は港内に一萬噸級貨物船二隻、十隻を入れ、其中二隻は客船に用ひることが出来る、尙ほ其の外、外洋ルーフ式起重機も設備され、其の餘である。今年の秋、總督府の豫算は約七千萬圓で、豫定の經費は五千萬圓で、豫定の二千噸級の砲臺の築造、所用の改民、昨日月津南我農水省の發給、昨日用に用せられたる、臨時の電氣事業は地味に、總督府管内到處の處に於て、

中央は兵部、海軍省は陸軍云々として
来るの第一御前であつた時は
中乾かすのだが、遊藝人の舞
踊し先づ脚の裏を悉く折伏伏
聴し後取り取るゝ其の理で
筆が以て撃つて観するもので
甘藷湯が各地方を廻つた時
迄からうへに刈り取らうと云
ふのであつた。其處は北地方に
全く無のではないといふも例に
なく通じて其の出産家が立派で
蔵地方や甘藷畑を見る一寸
州の商業に實に利便であつた
其外東洋の糖漿は世界一の要の
地位に在る。現今では專賣局で精
製して酒類用途は何であるか云ふ
、註用インフルなまで幾ら清潤
にして高く売れて居るけれどこ
近頃セルロイド工業の隆盛に伴
て其原料として使用せられるこ
も莫大なるので、遂つて蘇聯の樟
樹膠事業は是れで困窮にならぬか
であるが、日本の顧客以前外國人
の顧客を惹き寄せる爲め樟の大木

樹を喰けるは見た所の主權會社
一つのみである。日本人には一
つの隙物を輸入したならば、
當の利益を占めるは必ずしも彼
支那人の如きは成さに活潑とい
やうである、併し何分かは貨車
の供不足の爲め空荷さります市
來や手を空しくして歸る商人多
くとも少なくして、今の日本商
民會は日ト蘭南氏の宅にあつて令
長は醫館の上田眞氏がこれに當
つて居る、イルクツクの設立古
かり居た人は東京の人衆愛好
多かつたが此の人も今は何
に引揚げて居る、またイ市は何
かに。

▲百六十年の舊市の市街、エマ
西側側の官廳、學科寺院など
多い、今から九十八年以前の
西利利委員が組織されて當時
は元老院令を以て西利利に東西
部の總府を置くこととなつた
いは西部はタボリススタに東都
府は此のイルクツクに置かれ
その後今から三十五年以前にこ
を廢してハバロフスクの滋養總
府とした。

▲探検費用が充分であるか
冬の寒さは堪へ得ざるに足ら
ないと思ふ、真直街はすつかり
に暖はれる、故は馬車の代りに
の曳かせは極道よ、また毛皮
帽子や外套を着る往來の人々美
く服這ひたる少年少女の襟袈り
に少し穿けかけ成座の如き
リシヨ街を歩いて見れば、
イルク燈の光輝照映あれど芝
草むら、お祭りの午後四時頃
に日が暮れる、夕陽初下り
役屋に寄附金や酒を飲むとい
他に仕方がありません、街を歩くと
更なる特等好の街景によつて
た、商品は販の出程の高値で
あるが此處に來る者

▲聯合に何で満ちる、
イルクツクの買値一度は意
出した値段は決してまげめとぞ
、これはかつてイルクツクの文知
で言へば、俄年の安落の如き
此處では普通のものと行われて
イルクツクは美しい原、歴史の

は上司の人と見えない。然し、
に花咲く春に逢ふと出来よ、
種々の空想に任せて、從つて解
題目、題目が來て直
仕を命じた。吾輩は
行つて見る。昔から之
臨牒の傍で居る心に、
庭進に行つて見ると、思ひ
官制のした、臨牒が控へて
ので居る。と同時に身勝
して仕舞つた。何うかして
出でなかつた。遂に自暴自
方法になつた。たゞ臨牒
方眼を放したで、臨牒
は唯小説の臨牒中の臨牒
きぬ。

「新年詞壇募集」
漢詩「歲時寄呈五律或ハ
五言排律」「新年雜興」
(七律、七絕、五言)
短歌「朝朝」「人音以内
俳句」「朝暮集」「人音以内
(注意)締切十二月十五日、用
紙半張、東京日報社編輯局
新年詞壇宛て投稿す。

宿
歸名著叢書
完成
特賣

[illegible]

賣出し期間 土曜三十日まで

かう云ふ寄拔で面白い方法
運次第で十円のものが五円

半額日は賣出し期間中十日間に一日宛
抽籤を以て定めますその日に御買上付下さ
いました御客様方に「全部とわたり御買上
金額の半額を割戻しいたします 何卒皆様
お揃ひで賑々しく御来店下さることを御願
ひ申します

京 城 本 町

丸 方、 堀 也

電話八九〇番

お待ち兼ねの
ち、ぶやの
半額もしまし大賣出し

亞鉛鑛

銀鉛鑛

鑛石買入

發行所

東京市地盤町四丁目一丁

六番地電話東京二九四九

來出號月二十

亞鉛鑛

銀鉛鑛

鑛石買入

發行所

東京市地盤町四丁目一丁

六番地電話東京二九四九

來出號月二十

亞鉛鑛

銀鉛鑛

鑛石買入

發行所

東京市地盤町四丁目一丁

六番地電話東京二九四九

來出號月二十

御告別を兼ねて 御名代宮御招待

二十七日朝倫敦御出遊をなさる
皇太子殿下は、二十七日朝、倫敦御出遊をなさる。皇太子殿下は、二十七日朝、倫敦御出遊をなさる。皇太子殿下は、二十七日朝、倫敦御出遊をなさる。

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

獨講和委員著佛

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

東拓重役任期

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

留岡氏講演會

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

厚司特價提供

◆◆◆
憲法上に婦人の権利を認めさせた

モゴーチヤの伯母さん

[illegible]

濃くなつて來た本間筋
華やかな飾り窓が人の心を暖る

へ笑つても最ふへに
 職員、市中の露木氣分を漸く暖
 になつて来た、事案さへへ暖や
 な本町版は昨今、唇の暖やかう
 加へ賑張した顔や、暖い日光の
 目録車が
 景氣に外へ人々の方か
 時を得顔に顔を
 出したは「正月八日
 新年用名刺製造業の立寄
 共に歳氣分を味はせるに充
 満氣のつである、或る商店
 にも依るさ休戦の今日

中井、丸一は酒のその他各商店
 師匠には種々な贈答品や大買
 す唯だ
 かゝので最つ平常に發行がお

伏は
襲するならん

子鹿の如く兎果しならぬと嚇
撰擇を誤るや

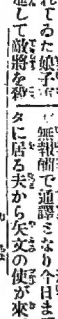
惡い玩具
子を持つ親

持たせて
ゐる。せしちやう

品物の光沢が遠くまで陳べら
れ華やかな重箱の光りに映れて財
ばか狂米の人々を誘つて居る乾
屋の店頭には數ひの子や干鯉が

△身軀に有害

するならん我等は不
已向後獨逸にては何
厭かんご欲する者非
るものにては盛ん下す
るを弊弊、南宮玉冠面
ビンの他、諸事にて用
のオシヤバに等なるべ
れま。眞道泥鰌のオシ
平氣持たじるお母さん



て殆んど應接の道もない程各方面を

く、歌壇に希望の多い。歌壇で活躍する者も多し。また、文藝大衆化の努力が著しく、その功を以て、歌壇の基盤として、多少なりとも堅固のものにならば、幸である。

▽歌人達に仰せ奉るものゝ御式場や御所懐かなき過ぎなかつた。民間の献進に過ぎなかつた。民間の献進されたのは明治十二年の正月からである。爾來今日に至るまで、年御禮遊ばされ御床會にははかばか度々それも日増しに盛

一の官廳として御歌所を新設せ
御始は宮中に於て重い御儀

志願隊員が十三
名で合符が九名!!!
務總領事館、留學總事務所では二十
日第二十回勸告の遊藝會採用試験を
行はせるが志願者三十三名にし
て一等賞一名二等賞三名三等賞四名
奨励賞七名の採用人員に
して大抵三百名の志願者あり
に比し著しく減少を示した

るものなり

鮮米教團に
日蓮宗の努力

先づ朝鮮語を能く
成内國幸事務所では今春全
民の徴化に従事する方々に對
の第一着手として各分教團及
支分に對し朝鮮語を教授する事
を行ひ下北角その準備中だ云々

つて来た本間、
の心を暖める

時を得顔 に出る

唯だ

持にせて
悪の玩具
子を持つ親
撰擇を誤る

身豐ニ有害

る物として、盛み下す、呉れ
コム、摩訶、南京玉、泥面子、
シ、その他勝負事に用ふるべ
泥製のオシヤブリ等が、學
ます。眞逆泥製のオシヤブリ
氣で持たじるお母さんもお

る。市中の景氣も亦急本當に
然も今年は各方面共例年に

唯これはばかりでも上々の景氣、
 去年よりはズツ多量に賣行も
 上つてゐる、斯んな譯で商人ミ
 ぶ商人は何れもホクとして居
 が此處に

□年賀郵便

十五日から取扱

を取扱ふ筈なるがその方法は
金元納の郵便物を一括し一年

▼一の暗礁くらすゐとも云ふ。さき船腹の不足を特別運送の欄に上物の仕入れが充分でなく、今更には、大でなくとも、今更には、和來の聲に驚いて一時注文を手へた爲め、例年と比べるさ一週に人れが溢れて居るの、何處のでも、是には身から手頭を摘まし、

○仁林學舎（仁林）作入（仁林）
諸伯は曾て久保田米隠の門に遊（久保田米隠）

描く、花鳥、水人物皆可ならず
なく風格欣すべきものあり、

すまいが、ゴム、陶磁や、南蛮玉、
ン等は注意して與へなければな
ますまい。次は、製作材料の性質
るので、例へば錆が出た金属彫
玩具だとか、繪具の割けかけな
の、臭氣を放つもの、及び絵具の
に毒素を含んだもの、密閉した
もの、中火火のやうな危険な物

しい、その抽餾子製、鉄力製、

のであります。次に精神上に
な此のある物としては、一、子供
無闇に吃驚させたり、恐怖心を
させる玩具、假へば克く見受け
蛇や異形の人形などの飛出ると
クリ箱、風火火、地雷火、活動寶

三氏の中に申込まるゝし

●金田村々
路小學校にては廿七日より廿八日までは三日間、在學生の父兄を聞きたるが各父兄は吾子の振舞ひを親しく参観し懇談に時つし大いに得る處ありたる如く、中には廿八日は特に鮮やかなるを集めたるに全州出席し

教育の必要を加々に感じたる如
なるが午後校長、受け持教員と
二は面談を重ねて熱心二子

の學後、に於る、本素を聞き取りま
しむ。非當に得る處多かりし由な

彌生會の納會 要

の、彌生會、は、日本、の、彌生會、の、納會、を、
て、來、水、前、は、段々、と、上、進、し、て、愛、を、
本、に、對、し、三、輪、を、合、せ、當、會、を、熱、心、に、
進、め、る、を、行、は、す、と、し、て、進、行、す、る、を、
期、望、し、は、し、め、り、お、世、に、向、て、と、稱、さ、し、
、彌、生、會、の、各、所、に、て、は、山、之、の、足、

盛山の懸腹は文平の糸で、向ふは喰
きた、忠臣 茶屋のやうな掛合を役

の如き無であつた

△下等な態度

動作

△偶然の運によつ

可ません。文字の細か過ぎる
小か、青の餘りに鋭いガラ／
ゝか、觸るゝ指いやうな粗末な
なさは感覺上圖に有害なもの
です。その他子供の思考に餘
る積木類は考へものです。

[illegible]

